

## 2-7-2. 生物生息分布

### ①N-1 地域：静大裏山地区（図 2-7-2①）

生息上重要な地域および生物の移動等を促進する要素は、地域のほとんどを占める森林であった。しかし森林部の 7 割を占めるアカマツ天然林は、松食い虫の被害により大木が急速に枯死し、生息環境の変化が起こっていたと考えられる。

一方生物の移動等を阻害する要素は、北東部分に接する清水日本平パークウェイであった。これは日本平山頂へ通じる 2 車線の有料道路で、道幅が 5.5m を越える舗装道路であった。その他、農地に通ずる農道は 3 本あったが、農地までの間は使用されていたがそれ以遠の部分は利用されず森林化しており、生物の移動を阻害していなかったと考えられる。

### ②N-2 地域：九能山地区（約 54ha）（図 2-7-2②）

生息上重要な地域および生物の移動等を促進する要素は、地域の大部分を占める（特に北部の）広葉樹林であった。ここは伐採などの人為的行為が行われておらず、生物の重要な生息空間であったと考えられる。

一方生物の移動等を阻害する要素としては、南部の久能山東照宮や静鉄日本平ロープウェイなどの人口構造物や、それらの施設の関連施設や参道などがあった。ただし、これらの地域は連続的に人工的な環境が広がっており、北部の広葉樹林からの生物の移動は少ないと考えられ、影響は大きくなかったと予想される。また上述の砂防工事や治山工事がにより設置される堰堤についても、堰堤の設置によって柳沢川はほぼ安定し、放水路の高さまで土砂が堆積したため、工事後は動物の生息を阻害することはない。

### ③N-3 地域：有度山山頂地域（図 2-7-2③）

生息上重要な地域および生物の移動等を促進する要素は、広葉樹萌芽林（二次林）と一部の針葉樹植林地であった。全体的に手入れや伐採などの形跡がなく放置されており、二次林および植林環境としては荒廃した状況にあった。またミカンや茶の栽培地は、小面積の栽培地や遠地では栽培が放棄され、またこれらの栽培地に通じていた道路が使用されなくなったため、両者は急速に広葉樹林へと移行しつつあった。

一方生物の移動等を阻害する要素は、当該地区の中央を弧を描いて通過する清水日本平パークウェイであった。これは日本平山頂へ通じる 2 車線の有料道路であって、道幅が 5.5m を越える舗装道路であった。





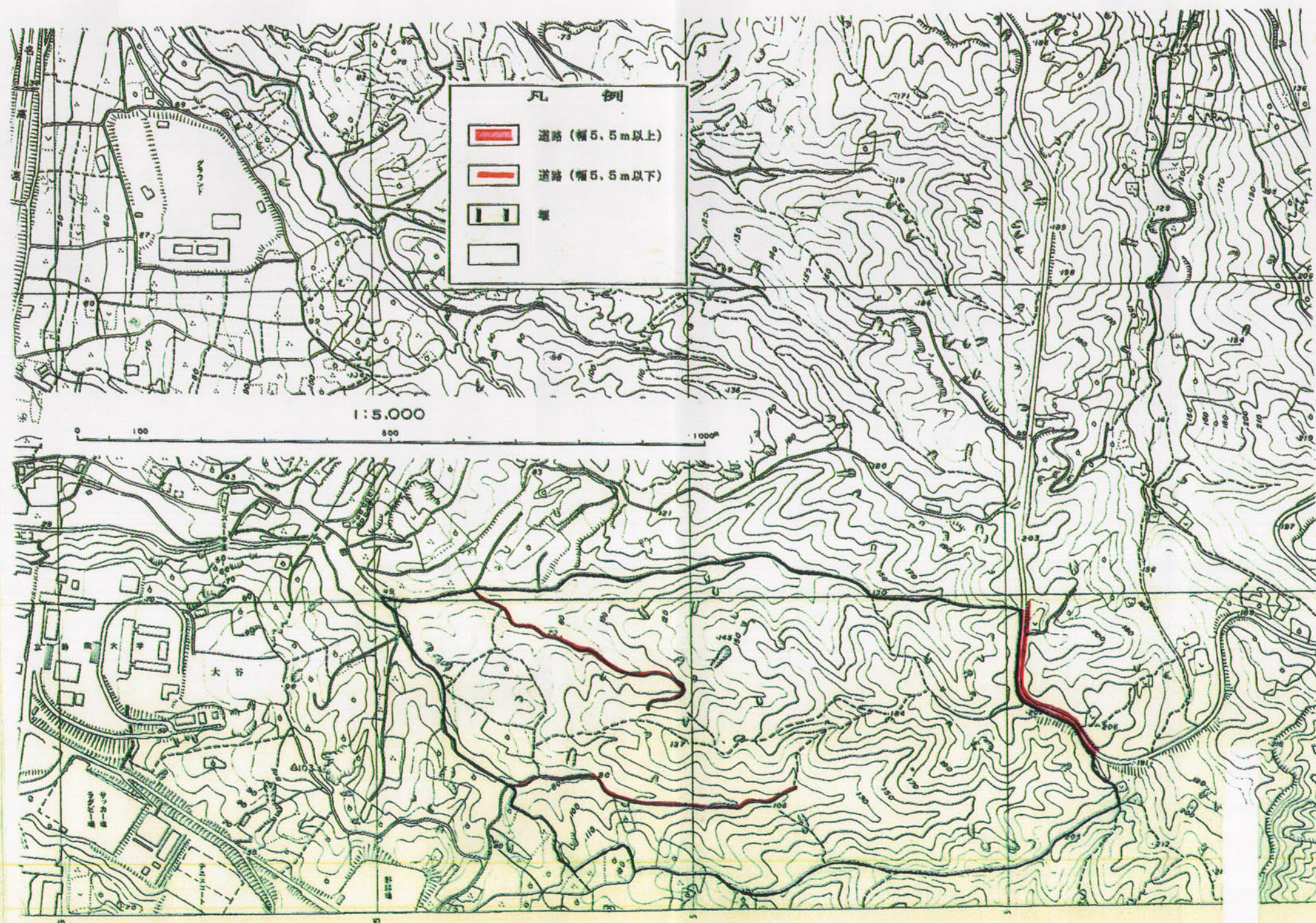


図 2-7-2① 生物生息空間分布図 N-1 区 (静岡県)



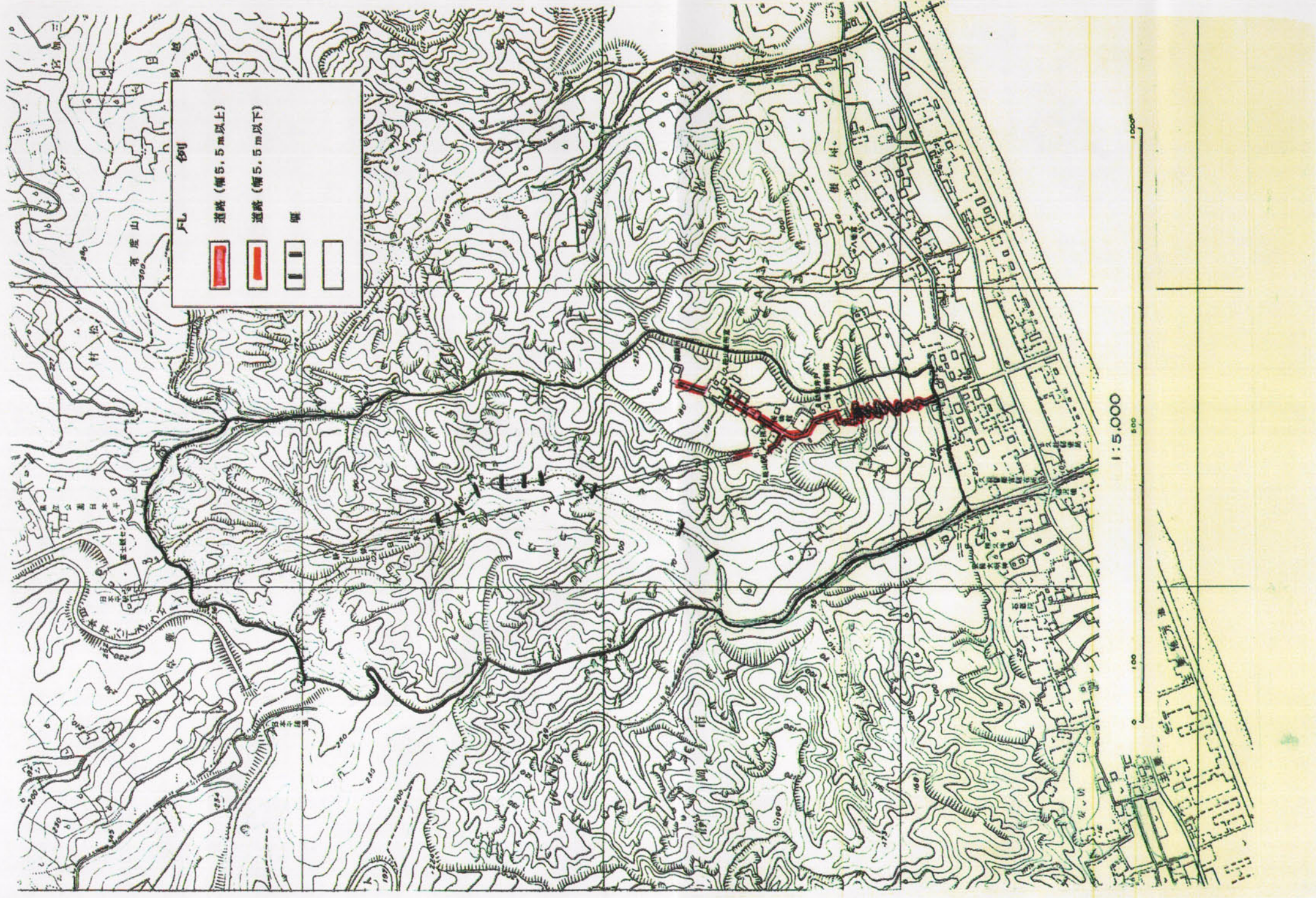


図 2-7-2② 生物生息空間分布図 N-2 区 (静岡県)



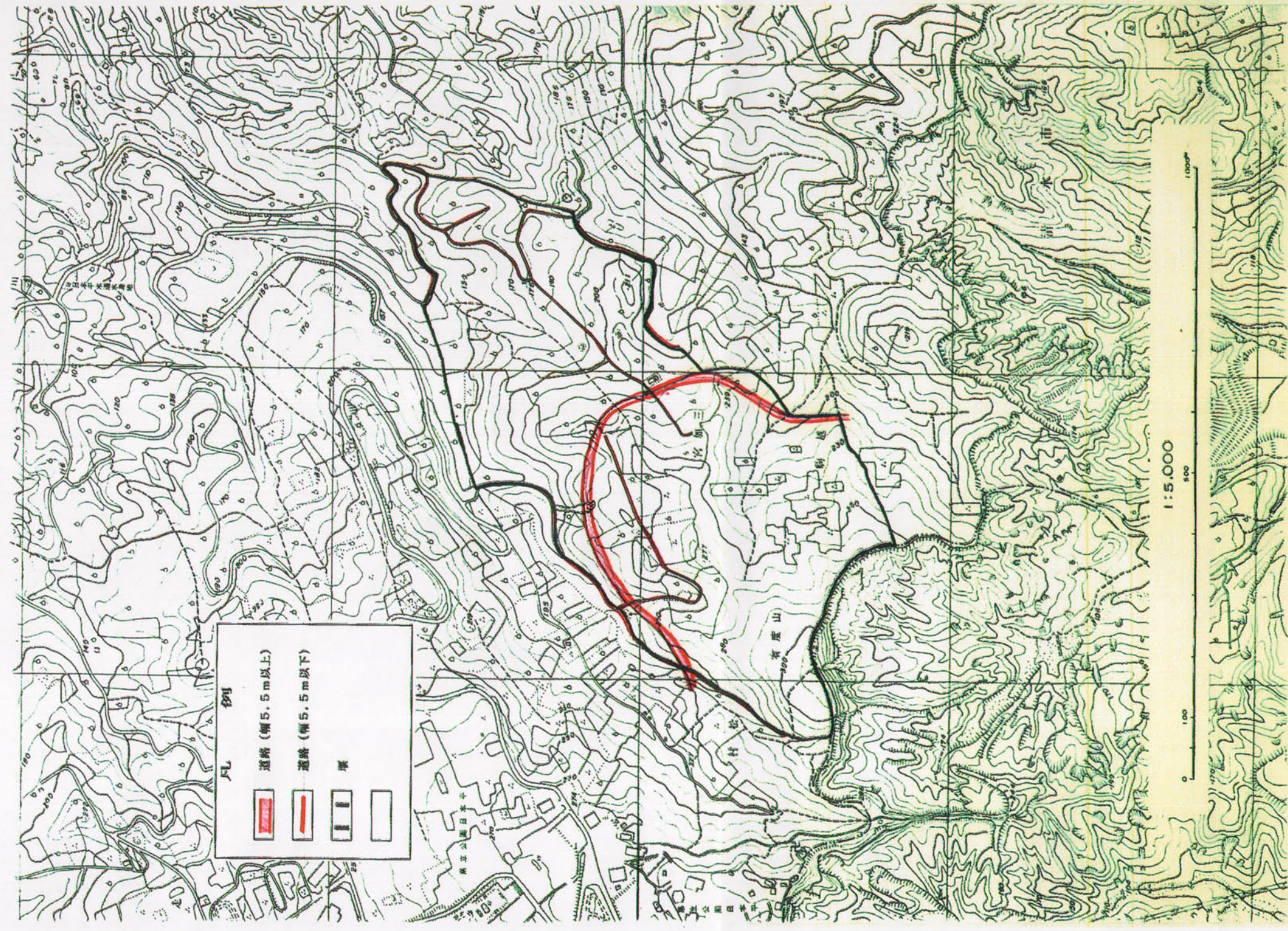


図 2-7-2③ 生物生息空間分布図 N-3 区 (静岡県)